

資料 3-3 140224JAEE 耐津波工学委員会 第 10 回委員会 2014. 2. 24  
原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム (案)

日時：平成 26 年 3 月 20 日 (木) 9:00-18:00

場所：建築会館ホール (150 人収容)

参加費：3000 円 (資料代：主催共催学会会員)、4000 円 (資料代：非会員)

開催主旨：日本地震工学会では、「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」(2012 年 9 月～2014 年 8 月/委員長：亀田弘行) を発足させ活動を行ってきた。同委員会は、原子力安全のための耐津波工学の体系化を目的としており、地震工学・津波工学・原子力安全工学の専門家が密接に連携する体制をとっている。本シンポジウムは、同委員会の 1.5 年間の活動報告を行うと共に、パネル討議において、産官学 (事業者側、規制側、大学) から、安全から設備設計、防災に至る幅広い意見の収集と情報交換の場とし、特に、原子力安全に対する学術の役割・責任について検証する機会としたい。

主催：日本地震工学会、共催：日本原子力学会、土木学会

企画担当：日本地震工学会 原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会

#### シンポジウムプログラム

1. 開催挨拶 (9:00-9:15) — 日本地震工学会、日本原子力学会、土木学会 【座長：宮野】
2. 調査委員会の設置主旨と活動概要 (9:15-9:35) — 亀田
3. 耐津波工学の体系化に向けた活動の中間報告 (9:35-12:35, 6x@30) 【座長：中村隆】
  - 1) 地震・津波工学に求められる原子力安全 (外的事象、共通原因故障と深層防護の関り) — 宮野
  - 2) 既存原子力発電所の地震・津波被害からの教訓 (事故シナリオ、要求性能) — 成宮
  - 3) リスク論に基づく津波防御の体系 (設計 (確定論) と評価 (リスク論) の連携) — 高田
  - 4) 耐津波設計の概念構築 (ハザード、フラジリティ) — 今村
  - 5) 敷地周辺を含む原子力防災と地域防災の連携 — 佐藤
  - 6) 海外原子力発電所における洪水対策の現況 — 奈良林
4. 津波への原子力安全に関する最新活動報告 (13:30-15:30, 6x@20) 【座長：高田】
  - 1) 日本原子力学会 (津波安全と社会との関連) — 諸葛
  - 2) 土木学会 — 松山
  - 3) 日本電気協会 — 長澤
  - 4) 事業者 (東北電、中電) — 飯田、石黒
  - 5) TSO としての活動 (IAEA-EBP の活動も含む) — 蛭澤
5. 「原子力安全に対する学術の役割・責任」に関するパネル討論 (15:45-17:30) 【コーディネーター：亀田】
  - 1) 事業者 — 新田 (原電)
  - 2) 規制側 — 森田 (規制庁)
  - 3) メディア — 増山 (NHK、科学文化部)
  - 4) 専門分野 (原子力工学、土木津波工学、地震工学) — 中村隆、香月、高田
  - 5) 総合討議
6. 閉会の挨拶 — 原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会

## 実施に向けて (案)

実施体制：耐津波工学シンポジウム実施 WG

主査：高田

コアメンバー：香月\*、松山、佐藤

成宮\*、糸井、電力委員

杉野\*、日高、東 (\*は分野ごと責任者)

## 実施スケジュール

	9	10	11	12	1	2	3	
企画案決定		→						
関係者との交渉				→				
JAEE より告知							→	
資料作成準備							→	
実施							3/20	

パネル討論については、

事業者、規制、多分野からの専門家からの学術(学会)への要望や期待するものについて、各パネリストが、5分ぐらいでPPT2枚以内で意見を紹介し、その後、座長(コーディネーター)の進行に従って、相互意見交換、議論する。

○原稿は3月3日までにファイルで東さんに提出。冊子を作成

○当日使用したファイルをHPで公開する。基本はレズメ

## 冊子作成要領

プログラムにおいて、2.～4.の発表者については、基本、2ページあるいは4ページの発表概要を別添のフォーマットに従って作成する。5.のパネル討論においては、書式自由で、PPT2枚に意見をまとめてもらう。

これらをシンポジウム冊子用原稿として3月3日までに提出する。

以下、質問がきておりますので、委員会でご審議いただければと思います。→は高田の意見です。

1) 3月20日のシンポジウム当日使用するパワーポイントファイルは冊子に含めるかどうか？

→ パワーポイントファイルは含めない。ただし、パネル討論のみ含める。

2) 執筆文は2ページまたは4ページを基本とするが、それ以上は可能か？

→ 基本は4ページまで。既に作成済みであれば6頁ぐらいまではOK。

3) 当日発表のパワーポイントファイルの扱いは？ 配布するかどうか？

→ 配布しない。

4) 発表に用いたパワーポイントファイルのシンポジウム後の扱いは？

→ 後日、地震工学会のHPにアップする。

以上。



(案) ver. 140128

原子力安全のための耐津波工学に関するシンポジウム  
「原子力安全に対する学術の役割・責任」  
に関するパネル討論

2014年3月20日  
建築会館にて

コーディネーター・亀田弘行

\* 委員会の目的

- 1) 原子力発電所の津波防御のための工学技術の体系化
- 2) リスク論に基づく原子力発電所の地震・津波安全評価体系の明確化
- 3) 地震工学、津波工学、原子力安全工学の分野横断的討議をふまえた総合的視野の構築
- 4) 以上を包含する地震・津波に対する原子力安全実現の枠組みを「耐津波工学」として体系化する

\* 委員会における討議の要点

- ・「事実」と「論理的整合性」を重んずる科学的な視点
- ・国際的視点
- ・現行規制の枠組みに捕われない

\* パネル討論の目的

- ・ 本シンポジウムでは、学術の使命との認識のもとに、行ってきた委員会活動の状況を報告した。
- ・ 工学は社会に貢献してはじめて意味がある。
- ・ 原子力安全に関する学(学会、研究者)の役割・責任への注文・提言をいただきたい。

\* PDの進め方

- ・ パネリスト、フロアのからの問題提起
- ・ 委員会として受け止め
- ・ 幹事会でまとめ / 課題抽出 / 委員会で討議
- ・ 報告書(総説、第11章)に反映